



2026年度  
前期号

日々の授業を  
さらにサポート!



コルクがしの  
樹皮の収穫  
(コルーション/ポルトガル)

地歴・公民科資料

ちれこ  
ChiReKo

付録

① 世界の“NOW”を探る現地探訪  
帝国書院取材班が行く！  
ポルトガルとスペインの  
自然・産業・文化

② 地図帳活用コトハジメ付録ワークシート  
地図帳を活用した「東京都周辺の地形と人々の生活・防災」に  
関するワークシートの活用について 解説：時実 香奈子



CONTENTS

- 2 帝国書院 取材班が行く！  
ポルトガルとスペイン・ガリシア州
- 4 地図帳活用コトハジメ 時実 香奈子  
地図帳から読み解く  
東京都周辺の地形と人々の生活・防災
- 6 教育情報ナビゲート 取材編 佐藤 崇  
単元を貫く学習課題で個別最適な学びと  
協働的な学びを目指す実践授業  
—MQとSQを設定し、問いを構造化する—
- 9 研究最前線～歴史 水口 幹記  
国風文化論の現在
- 12 授業研究 地理 篠原 敏紀  
中高接続の視点を生かした  
「地理総合」の実践 —アフリカを例に—
- 16 授業研究 歴史 瀧野 優貴  
「歴史総合」2単位で完了させる  
授業設計と内容精選  
—「歴史する (doing history)」主体を育むジグソー法の実践—
- 20 授業研究 公民 二見 遼介  
選挙に参加する意義を見出す  
授業づくりを目指して  
—「民主社会と政治参加」の授業実践例—
- 24 徹底活用！ ICT 帝国書院ICT開発推進室  
総合も探究も充実のICTサポート！  
『デジタル準拠ノート』と  
『デジタル実践問題集』
- 26 ほりさげ人物 遠藤 珠紀  
「尼将軍」北条政子とは？
- 27 日常生活にフォーカス 地歴・公民 湯澤 規子  
お菓子の地理学 —甘くておいしい探究—
- 28 明日使える！ GISのワンポイント活用 遠山 佳秀  
「地理総合」におけるGIS活用の実践と展望  
—身近な地域調査から広がる探究の扉—
- 29 地図のカフェテリア 今尾 恵介  
大正時代の地図帳に見る近代史
- 30 キャッチ！ 日本と世界の動き

帝国書院



# ポルトガルとスペイン・ガリシア州



ポルトガル共和国 基本情報(2023年)

- 首都：リスボン
- 人口：約 1046 万
- 面積：約 9.2 万km<sup>2</sup>
- 年平均気温：17.2℃(リスボン)

スペイン王国 基本情報(2023年)

- 首都：マドリード
- 人口：約 4808 万
- 面積：約 50.6 万km<sup>2</sup>
- 年平均気温：15.4℃(マドリード)



『新詳高等地図』 p.59 より

イベリア半島の西側に位置するポルトガルとスペインのガリシア州に、どのようなイメージを持っているだろうか。コルク生産量世界一のポルトガルや「緑のスペイン」と呼ばれるガリシア州の現状を紹介していく。

## ポルトガルのコルクがしの収穫

夏に乾燥し高温となる地中海性気候が大部分を占めるポルトガルは、耐乾性が強いコルクがしの生産量が世界一である。ポルトガルのコルクがし林は、同国の森林面積の約23%を占める。2025年6月、取材班は、ポルトガルのテージョ川の南部に広がるアレンテージョ地方のコルクがし林を訪れた。このコルクがし林を中心とした農業と牧畜を営む農林混合地帯はポルトガル語で「モンタード」と呼ばれる。私たちが訪れたアレンテージョ地方のモンタード(写真①)は、国内最大の約1万km<sup>2</sup>の広さで、岐阜県と同じ規模である。

コルクがしの収穫は、取材班が訪れた気温が高く湿度が低い春から夏に行われる。幹を傷つけるとその樹皮は再生しないため、木を伐採せず、職人が専用のおのゝ本を使って手作業で作業する。最初におのゝ縦方向に、次に横方向に切れ込みを入れたのち、樹皮を剥離するように浮かせ、幹から樹皮を慎重に剥ぎ取る。熟練になると1本剥ぐのに10分もかからない。収穫後の幹にはペンキで収穫した年の下1桁を記す(写真②)。これは、コルクがしは、約9年で再生するため、次の収穫年の目安とするためである。

収穫された樹皮は、集積工場に運ばれ、半年ほど天日干しし、煮沸されたあと、厚さやコルクの密度などの各グレード



写真：2025年6月撮影／帝国書院

(写真③)に選別される。最近、この選別にAIが導入され、グレードごとに自動裁断されるようになり、労働時間が大幅に短縮された。

コルクの収穫がない冬には、ここでは牧畜が行われる。コルクがしのドングリは、豚や羊の重要な飼料となる。このドングリを食べて育った豚は、特有の風味を持つイベリコ豚となる。取材班も、おいしくイベリコハムをいただいた。

### さまざまな製品に加工されるコルク

取材班は、ポルトガル北部の第二の都市ポルト(写真④)を訪れた。ポルト周辺ではぶどうが栽培され、世界的な「ポートワイン」が生産される。このワイン栓に使われるのがコルクである。そのためポルトー帯にはワイン栓の工場が多く点在している。

ワイン栓工場に送られたコルクは、ここで再び天日干しと煮沸が行われる。これは、コルクから異物や汚れを取り除くためだけでなく、その柔らかさと弾力性を向上させるためでもある。そして、コルクの密度や厚み等で選別され、高品質な部分のみワイン栓用に使われる。選ばれた高品質なコルクは、板から円柱状に打ち抜く形で裁断され、再び選別と消毒を行い、ようやくワイン栓となる。最近ではアメリカ合衆国のワインメーカーの要望で、香りづけや漂白などが行われている。残念ながら、取材班が訪れた工場で

は日本からの受注はなかった。

ワイン栓にならなかったコルクは、ほかの資材として利用される。コルクは軽量で断熱性や防音性が高いため、建材としての需要が高く、床や壁などに使われる。最近では、サッカーグラウンドの地面やロケットの熱遮断材としても使用されたり、インテリア製品やかばんとしても活用されたりするなど、ポルトガルでは、高付加価値な製品の開発やブランド化に注力している。

### リアス海岸の語源リアスバハス海岸

取材班は、北上しスペインのガリシア地方を訪れた。ガリシア州は、北大西洋海流と偏西風の影響を受け、降水量が多く、緑豊かな景観が広がる。その海岸線は、谷が沈降して海水が入り込んだ地形をしている(写真⑤)。これが、リアス海岸の語源となったリアスバハス海岸である。入り組んだ湾には大型船舶やヨットが停泊する港が点在し、湾内では養殖いかだが組まれ、ムール貝やホタテが養殖されている(写真⑥)。近隣都市の市場では新鮮な魚介類が売られており、おいしいホタテを食べることができた(写真⑦)。

#### 取材後記

今回訪れたポルトガルとスペイン・ガリシア州では、「緑のスペイン」の自然の中で人々の営みが織りなす文化と産業を取材することができた。自然との共生や持続可能な産業に取り組む人々の姿を、生徒たちに届けられればと願う。